

青年海外協力隊員レポート

平成14年7月から青年海外協力隊員の看護師として、セネガルで活躍されていた山崎こずえさんが2年間の派遣期間を終え、7月に帰国されました。

派遣国での体験と感想をご紹介します。

セネガル・レポート

山崎こずえ（横田）

西アフリカのサッカー王国セネガル

皆さん、青年海外協力隊ってご存知ですか？ それは、20歳から39歳までの日本の若者が何らかの協力を必要とする国に派遣（2年間）され、その国の人々と生活を共にし、その国の言葉を話し、お互いの理解を図りながら技術や知識を生かしてその国の国づくり、人づくりに協力していくというものです。私も看護師として、アフリカのセネガル共和国という国に派遣され、2年間活動させていただきました。これから、そこで得た貴重な体験や驚くべき？異文化の体験、またセネガルという国についてお話しさせていただきますと思います。

セネガル共和国。それはアフリカ大陸の西の端：アフリカの地図を思い浮かべてください、左側に大きく

突き出した部分がありますね、その一番突き出た所にあります。日本との時差はマイナス9時間、セネガルまでは飛行機を使っても、ヨーロッパ経由で2日間かかります。面積はちょうど日本の半分くらい、山のない平らな土地が広がる半砂漠化された国土を持ちます。季節は雨期と乾期の2つ、雨期にはスコールのような大雨が何度も降りますが、乾期は一滴の雨も降らず、気温も40度近くまで上昇し、非常に乾燥した日が続きます。人口は約900万人、公用語はフランス語ですが一般的には多くの部族語が話されています。また人口の約8〜9割がイスラム教徒というイスラム教国でもあります。さて、みなさんはセネガルと言う国の名を聞いたことがありますか？



ダカールにある長距離バス、タクシーの発着所



首都ダカールの中心にある独立広場

サッカー好きの方なら2002年のワールドカップで強国フランスに勝ちベスト4に入った国：車好きの方ならパリ・ダカールラリーのゴール地点ダカールが首都である国：そんなイメージが浮かんでくるのでしょうか。私が最初にセネガルと聞いて持ったイメージは、やはりパリ・ダカールラリー、そして暑い！黒人！砂漠！だったように思います。そして「アフリカの途上国」という印象も大きくありました。

しかし、実際にセネガルに着いて最初に降り立った首都ダカールは人口200万人の大都会！そこには大都市として発展した部分と、スラム街のような未開な部分とが背中合わせに入り混じる独特な光景が広がっていました。

タクシーやバスで渋滞する道路、その間を縫って荷車を押す人、狭い歩道を沢山の商品を抱えて売り歩く物売り、颯爽とスーツを着て足早に歩くビジネスマン。今と昔が入り混じった光景：そんな感じがしました。では、そこで生活しているセネガル人とは？：明るく、社交的、親切、お喋り好き、そして何より「おもてなし」の心を大事にする民族といえます。初対面でも握手を交わして挨拶をすれば、もう「お友達」です。セネガル人のお宅を訪ねていくと、